

世界に羽ばたく薬都富山を目指して

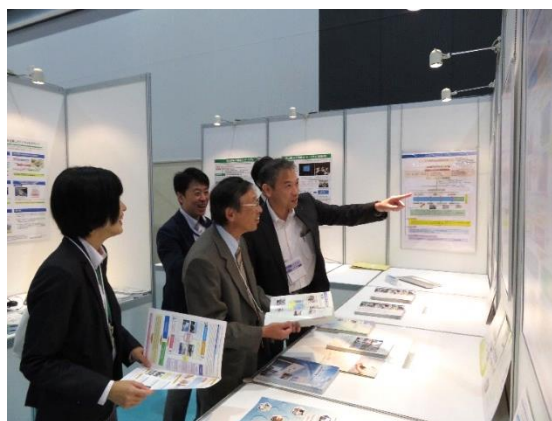
くすり政策課

くすりコンソーシアム推進班

副主幹 竹田 享代

平成4年採用

砺波厚生センター、広報課、
食品生活衛生課、中央病院等を経て、
平成31年4月から現所属



ものづくり総合見本市でコンソーシアムの取組みを紹介（筆者・左）

担当業務の概要

私は、県内大学や本県医薬品産業の振興を図るため、県内産学官連携により設立した「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの運営事務局において、医薬品研究開発事業、人材育成事業等の企画・運営を行っています。

県内には医薬品メーカー約80社と100を超える製造所の集積があり、全国トップクラスの医薬品生産金額を誇ります。本コンソーシアムを通じて、研究開発・技術開発を一層推進し、県内医薬品産業の更なる振興を図るとともに、全国から優秀な学生が本県で学び、医薬品産業を支える人材として活躍していただけるよう、その基盤整備に取り組んでいます。

ある1日のスケジュール

8:30 ▼	<出勤・執務開始> メールチェック、 午後の会議資料最終確認
10:00 ▼	<会議①> コンソーシアム人材育成事業に関して 大学研究者とskypeミーティング
11:00 ▼	<課内での打合せ> 大学との打合せを踏まえて、 今後の事業の進め方を検討・調整
12:00	昼食・休憩
13:00 ▼	<会議②> コンソーシアム研究事業に関する 研究評価会議運営
16:30 ▼	帰庁後、会議結果の報告書を作成
17:15	退庁

公務員薬剤師としての魅力・やりがい

公務員としての薬剤師は、病院薬剤師から行政薬剤師、研究者など、多岐にわたります。

特に、行政薬剤師は、医療や食品環境衛生等、県民の生活の安全確保や、医薬品産業の振興などを進めるため、予算の企画から現場での係わりまで、幅広い業務で、陰で支える仕事です。すぐには成果が出ませんが、県政の土台の一端を担っていると感じられます。

また、富山県庁では、希望制による人事異動もあります。この制度で、希望し配属された広報課においては、「くすりの富山」を県内外、また海外にも情報発信してきました。

2～3年で異動することが多く、常に新しいことを勉強していかなければならず、大変なことも多いですが、逆に新鮮な気持ちで、様々な仕事ができることが魅力でもあります。また、新しい職場の仲間と協力しながら仕事ができるので、不安があっても大丈夫です。

求められる公務員薬剤師

本庁でも出先機関でも、常に新しい出会いがあり、幅広い人たちと係わりがあります。職場では他の職員との協調性、現場では相手に不信感を与えないことが大事です。

薬剤師としての知識も必要ですが、これからは、語学、国際展開、学術研究、ビジネス等に関心のある新しい薬剤師が求められています。

メッセージ

薬剤師の枠にとらわれず、様々な角度から県民のためにできることが公務員薬剤師にはたくさんあります。いろいろな人と出会いたい、色々な業務を試みたい方、お勧めですよ。